

垂下飼育したイタヤガイ当年貝の 生殖巣の発達について* (抄録)

森 脇 晋 平

垂下飼育された当年貝のイタヤガイについて、生殖巣の肉眼観察と組織観察およびそれらに対応させながら成熟過程を調べたので、その結果を報告する。用いた材料は島根県水産試験場鹿島浅海分場で試験用採苗器に付着した稚貝を同所で垂下飼育したものである。材料は毎月1回採取し、殻長、全重量、貝柱重量、生殖腺重量を計測した。生殖巣は肉眼観察後、ブアン液で固定し、組織学的観察に用いた。当年貝群は満1年で成熟し放卵放精するが、成熟の過程は個体間で大きな差がみられた。放卵放精は4月から6月上旬にかけて行われており、成貝に比べて遅れる傾向がみられた。生殖巣の肉眼観察と組織像観察とを比較した結果、生殖巣の色彩、消化管の状態により生殖巣の発達状態を推定することが可能であると考えられた。

* 水産増殖 第30巻 第1号(1982)に発表した。